

部活動安全対策マニュアル

岩手県立宮古北高等学校

部活動の実施に当たっては、事故等を未然に防ぐために常に危機管理意識を高め、危険予測・安全確保に努めることが大切である。

I 基本的な安全対策の考え方

1 安全管理体制の構築

(1) 学校の部活動に係る活動方針の理解

部活動については、「部活動に係る活動方針」を理解するとともに、ルールづくりや情報共有など、関わる全ての者の協力体制の下、組織的に取り組む。

(2) 安全対策マニュアル等の整備

安全対策マニュアルを整備し、チェックリスト等による使用施設、設備、用具等の安全点検を行う。

(3) 救急法・AEDなどの職員研修の実施

緊急時における心肺蘇生やAED、エピペン等の救急対応を学ぶ校内研修の実施し、事故発生時の対応力を高め、安全管理体制を構築する。

2 事故防止のための安全に配慮した適切な指導

(1) 生徒の健康観察、健康状態を把握

生徒の健康観察を行い、健康状態を把握した上で、個々の生徒の発達段階や能力に応じて安全に配慮した適切な指導を行う。

(2) 個人の能力に十分配慮した練習計画・指導（段階的な指導）

生徒の体力や運動技能に合った無理のない指導計画を立案し、部全体の共通理解の下に活動する。また、顧問等は、指導する種目にどのような危険が内在するかを把握し、生徒に対しても安全に関する知識や技能を身に付けさせ、安全に配慮した活動ができるような指導をする。

(3) 顧問不在時の対応、他の部顧問との連携

やむを得ず顧問が直接練習に立ち会えない場合には、他の顧問教員と連携、協力したりあらかじめ顧問の教員と生徒との間で約束された安全面に十分に留意した内容や方法で活動する。

(4) 顧問等不在時の練習内容の徹底（基本練習に限るなどの危険性の低い内容 等）

生徒が自主的に活動する場合は、危険性の低い内容とし、練習内容や練習方法を具体的に指示する。

3 熱中症の予防措置

(1) 教職員への啓発

生徒等の熱中症予防について、全教職員で休息や水分補給の重要性の共通理解を図る。

(2) 生徒等への指導

生徒等が自ら熱中症の危険を予測し、安全確保の行動をとることができるように指導する。

(3) 暑さ指数（WBGT）を基準とした運動制限

公益財団法人日本スポーツ協会や日本生気象学会の指標を参考に、暑さ指数（WBGT）に応じた運動制限

暑さ指数（WBGT） 31℃以上 →運動は原則中止、

〃 28℃～31℃→嚴重警戒（激しい運動は中止）

〃 25℃～28℃→警戒（積極的に休息）

〃 21℃～25℃→注意（積極的に水分補給）

(4) 体調不良を受け入れる文化の醸成

気兼ねなく体調不良を言い出せる、相互に体調を気遣える環境・文化を醸成する。

4 日常の活動に潜む危険性

(1) 同一場所で複数部活動が活動する場合には、練習場所の区分けをする

練習場所を防護（防球）ネット等で明確に区分し、混在しないようにする。

(2) ヒヤリハット事例の情報共有

ケアレスミスや危険を感じたような出来事（ヒヤリハット事例）について、顧問等と生徒同士で報告し合い、次の練習に生かすとともに、他の部と情報共有をする。

<事例>

- ・バドミントン部のノック練習中、シャトル出しをしていた顧問や生徒の身体に生徒が打ち返したシャトルが当たった。
- ・卓球ダブルスの練習中、ペアの足を軽く踏んでしまった。
- ・バレーボール実施中ボールを追いかけることに集中しポールにぶつかりそうになった。

5 施設・設備・用具等の安全点検と安全指導

(1) 定期的に点検日を設ける

生徒に、施設・設備及び用具の適切な使用や点検や確認の徹底が事故の未然防止につながることを認識させ、定期的な安全確認・点検を徹底する。

(2) 活動前の用具等の安全確認

運動部活動は、学校施設・設備・用具等を活用して行われるものであり、多くの部活動が共有するものであることから、活動に当たっては、顧問等と生徒が共に施設・設備の安全確認を行う。

II 運動部活動における安全対策状況調査結果を踏まえた安全対策のポイント

(1) バドミントン

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・十分な準備運動を怠り、基礎基本の習得が不足。・床のスリップ。・ポールのネジの劣化。・熱中症の危険
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none">・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。・軽い運動からウォーミングアップを行う。・活動前の床のモップ掛け、シューズ裏に滑り止めを使用あるいはぬれ雑巾でふく。・活動中の床のこまめなモップ掛け。・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。・暑さ指数（WBGT）を基準とした運動制限の徹底

(2) 卓球

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・十分な準備運動を怠り、基礎基本の習得が不足。・床のスリップ。・卓球台の準備・後片付けの際の事故・熱中症の危険。
---------	---

事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。 ・軽い運動からウォーミングアップを行う。 ・活動前の床のモップ掛け、シューズ裏に滑り止めを使用あるいはぬれ雑巾でふく。 ・活動中の床のこまめなモップ掛け。 ・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。 ・卓球台の準備・後片付けは複数人で行う。 ・暑さ指数（WBGT）を基準とした運動制限の徹底
--------	--

(3) スポーツレクリエーション

予想される危険	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な準備運動を怠り、基礎基本の習得が不足。 ・バレー、バドミントン、卓球等を行う場合の床のスリップ。 ・ソフトボール、サッカー等を行う場合のグラウンドの状況。 ・各種種目で使用する用具の劣化。 ・熱中症の危険。
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。 ・軽い運動からウォーミングアップを行う。 ・活動前の床のモップ掛け、シューズ裏に滑り止めを使用あるいはぬれ雑巾でふく。 ・活動中の床のこまめなモップ掛け。 ・活動前のグラウンドの十分な状況確認。 ・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。 ・暑さ指数（WBGT）を基準とした運動制限の徹底

(4) ウェイトトレーニング（各部で練習メニューとして取り入れる場合）

予想される危険	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所の未整理、安全具の未整備（プレートの左右のバランス確認、プレートが落下しないように留め具でしっかりと固定されているか、ベルトやシューズ、バンテージなどの必要な安全具が装着されているか。 ・用具の破損や器具の整備不良。 ・個々の能力以上による練習、誤ったフォームによる練習。 ・十分な準備運動を怠り、基礎基本の習得が不足。 ・周囲の安全確認、選手同士の声かけ、意思疎通の怠り。
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。 ・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。 ・軽い重量からウォーミングアップを行う。 ・正しいフォームを身につける。 ・使用する器具の安全確認を怠らない。 ・外したバーベルの整理整頓を行う。 ・利用者、補助員ともに使用上の決まりを守り、安全を最優先する。

(5) その他

上記以外の活動について

- ・他の人と組み合うなど接触を伴う活動に留意すること。
- ・種目の特性や活動内容に応じた安全対策を講じて行うこと。
- ・気象状況の変化に応じた適切な活動を行うこと。

部活動における事故防止のためのチェックリスト

<p>1 安全管理体制の構築</p>	<p><input type="checkbox"/>学校の部活動方針について理解しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>部活動における安全対策マニュアル等を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>活動目標を明確にした上で適切な指導計画を作成しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>生徒の健康状態に配慮した練習日数や練習時間が設定されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>競技等の特性を踏まえ、それぞれの特有の危険性に配慮した適切な活動内容を設定しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>顧問不在時の対応のルールを決め、指導体制や監視体制ができているか。</p> <p><input type="checkbox"/>連絡通報体制、救急体制は整備されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>救助用具が適切に配置されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>AEDの使用を含む救急法等の職員及び生徒の研修（講習）を実施しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>AEDの設置場所やAEDの携行について適切に実施されているか。</p>
<p>2 事故防止のための安全に配慮した適切な指導</p>	<p><input type="checkbox"/>健康観察により、生徒の心身の健康状態の把握に努めているか。</p> <p><input type="checkbox"/>競技等に適した準備運動や補助を行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>段階的指導（体格差・体力差や個人の能力等に配慮した指導）をしているか。</p> <p><input type="checkbox"/>気象状況の変化に応じた適切な活動になっているか。（気温、天候、日没時 等）</p> <p><input type="checkbox"/>休憩や水分補給など、適切に行っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>顧問不在時の自主的な練習時における内容（基本練習に限るなど危険性の低い内容等）を徹底しているか。</p>
<p>3 日常の活動に潜む危険性</p>	<p><input type="checkbox"/>活動施設の状況に応じた適正人数及び活動内容になっているか。</p> <p><input type="checkbox"/>ヒヤリハット事例の情報共有が適切に行われているか。</p>
<p>4 施設・設備・用具等の安全点検と指導</p>	<p><input type="checkbox"/>定期的に点検を実施しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>活動場所に危険物をおいていないか。</p> <p><input type="checkbox"/>用具・器具等が正しく設置されているか。破損はないか。</p> <p><input type="checkbox"/>固定する必要がある用具・器具がしっかりと固定されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>用具管理の指導を徹底しているか。</p>

令和6年1月23日制定

令和6年9月19日改訂